

“滋賀県庁のパーパス”の 「発掘」に向けたWGLレポート

令和5年9月

「滋賀県庁の志や果たすべき役割について所属の垣根を
越えて職員みんなで一緒に考え、共有していきましょう！」
ワーキンググループ

目次

1	はじめに	p3
2	WGメンバー	p4
3	活動実績	p5
4	キーワードと職員の「思い」	p19
5	おわりに ~WGやWSの活動を通じて~	p30

1 はじめに

- 新型コロナウイルス感染症に対し、県民の生命身体等を守るべく全庁全職員が行動してきたところであり、大きな変革の流れの中にいます。「アフターコロナ」を模索しているこの機会に、県民をはじめとする多様な主体との共創を進め、また職員のやりがいや一体感を高めていくことが必要です。
- 「何のために、誰のために、私達が、今、滋賀県庁でともに働いているのか」を改めて考え、議論していくに当たり、職員同士が関わり合いを持ちながら、その思いや考えを掘り起こすため、「滋賀県庁の志や果たすべき役割について所属の垣根を越えて職員みんなと一緒に考え、共有していきましょう！」ワーキンググループ(以下「WG」という。)を設置しました。
- WGでの議論のほか、職員が“滋賀県庁のパーパス”の議論ができる場「パーパス発掘ワークショップ(以下「WS」という。)」を開催し(本庁4回・地方6回の計10回、延べ115名参加)、意見交換を行いながら、全庁への情報共有を行ってきたところです。
- 今般、WGでは、WSを通して得られた職員の思いのほか、職員個人から出された意見などを踏まえ、“滋賀県庁のパーパス”につながるキーワードと職員の「思い」を取りまとめました。今後の議論の「出発点」となることを期待するとともに、WSに参加いただいた職員やご意見を提出いただいた職員に心より感謝申し上げます。

2 WGメンバー

滋賀県庁の志や果たすべき役割を考え、議論し、掘り起こして決定される“滋賀県庁のパーパス”は、普遍性を持つものと考えられることから、**今後、数十年県職員として働く若手・中堅職員**を中心にメンバーを構成しました。

防災危機管理局	主事 細川 優衣	湖東健康福祉事務所	主事 西川 幸佑
防災危機管理局	主事 松浦 康介	農政課	主任主事 渡邊 仁子
県民活動生活課	主事 堀 真優果	東近江農業農村振興事務所	技師 須戸 美月
統計課	主事 上嶋 乃愛	都市計画課	主査 駒井 新人
市町振興課	主査 矢野 浩輝	会計課(湖東地域会計係)	主任主事 明吉 俊直
市町振興課	主事 山本 永輝	【事務局】 総合企画部企画調整課 総務部行政経営推進課	

3 (1) 活動実績 : WG ～第1回～

開催日 : 令和5年7月11日 (火) 場所 : 本庁本館クリエイティブルーム(1-D会議室)

意見交換テーマ

WSで職員の皆さんに安心して「思い」を話してもらうには？

・WSの進め方、意見交換テーマ

WGメンバーからの意見

職員一人ひとりに話してもらいたい！

- ・各WSで共通テーマがあった方がいい。
- ・一方で、毎回切り口を変えたテーマも作っては？
- ・組織と個人の両方のパーパスがあるかも？
- ・少人数グループの方が話しやすいのでは。

(※WGメンバーで、WSを想定して実際にやってみての感想)



WGまとめ

- ・共通テーマ(モチベーション、やりがい、楽しいこと、しんどいこと、Well-being...)
- ・他にもう一つテーマを設定 (WGメンバー数人でWSを担当し、内容を練る)
- ・進め方は、少人数グループで職員一人ひとりが安心して話せるように。
また、複数テーマを設けること、全体の振り返りを行うこと。

3(1) 活動実績：WG ～第2回～

開催日：令和5年8月22日（火） 場所：本庁本館クリエイティブルーム(1-D会議室)

意見交換テーマ

今後のWSをより良いものにできないか？意見をどうまとめていくか？

・今後のWSの改善点、WS等での意見の収束

参加者した職員に、WSでの気づきを職場へ持って帰ってもらいたい！

WGメンバーからの意見

- ・WSごとに、**参加者で全体を振り返るとともに**
気づきを得て、共有をすることが大事
- ・“滋賀県庁のパーパス”につながるキーワードだけでなく、**その言葉の裏の思い**が必要



WGまとめ

- ・全体振り返りでは、全体の時間に配慮しながら、**参加者全員に感想を**話してもらった上で、**WGメンバーでまとめ**を行い、その**共有**を図る。
- ・“滋賀県庁のパーパス”につながるキーワードを把握するとともに、その言葉に対して、**職員がどういった思い**を持っているのかを整理する。

3(1) 活動実績：WG ～第3回～

開催日：令和5年9月12日（火） 場所：本庁本館クリエイティブルーム(1-D会議室)

意見交換テーマ

WGのとりまとめレポートの構成、内容をどうするか？

- ・WGレポートの構成等について
- ・キーワード・思いのとりまとめ作業
- ・知事との職員座談会に向けた準備

WGの概要・まとめ

WGレポートのとりまとめに向け、メンバー同士で方向性を確認しながら作業開始！

- ・レポートの構成や内容の確認、共有
- ・キーワードにまつわる、WSやしながネットを通じて出されたの職員の思い・意見を整理
- ・整理した意見を、キーワードに係る職員の「思い」として、どういった方向でまとめるか打合せ
- ・WGの活動期間である9月末までの作業内容・工程の確認



3 (2) 活動実績 : WS~第 1 回本庁編①

琵琶湖環境部
ウェブサイト
～

開催日：令和5年7月13日(木) 場所：琵琶湖環境部部長室
参加者：琵琶湖環境部職員（11名）、WG（5名）



Mother Lake
Goals

変えよう、あなたと私から

意見交換テーマ

各個人の思いを語り、共有することから
組織のパーパスが見えてくるのでは

・職員さんの内なる思い (県職員を志した理由)

参加者からの意見

「琵琶湖」がキーワード？

- ・ **琵琶湖が好き！**
- ・ 滋賀県は景色が良く、**自然**が感じられる。
- ・ **県民だけでなく、下流の住民にも影響が及ぶため、**
(他県と比べ) 森林整備にやりがいを感じる。



新たな気づき



- ・ 琵琶湖をはじめとする滋賀の自然・環境に対する**想いが強い**。(県外出身も多い?)
- ・ 入庁前の志望動機(**気持ち**)が、現在まで**継続**している人が多いように感じた。

3(2) 活動実績 : WS ～第2回 本庁編②～

開催日：令和5年7月25日(火) 場所：本庁本館クリエイティブルーム(1-D会議室)

参加者：知事公室、総合企画部、総務部、文化スポーツ部等の職員（10名）、WG（4名）

意見交換テーマ

「知事」という全庁的な視点、さらには滋賀県全体を見る視点から、
“滋賀県庁のパーパス”を発掘するヒントが得られるのではないかな？

- あなたが**知事**だったら、やってみたいことは何？
(実現可能性はひとまず置いておく)

参加者からの意見

「チャレンジ」がキーワード？

- 湖北に橋 or 水中トンネルを建設
- 子ども向けテーマパークの誘致（アンパンマンとか）
- 職員の海外研修（留学など）
- ジョブチャレンジの拡大



新たな気付き

- 各職員は、大小さまざまな「志」や「モチベーション」を持って働いている。
- 他部署の方と意見交換すると、普段は思いつかないことがひらめいてくる。

3(2) 活動実績 : WS ～第3回 本庁編③～

開催日：令和5年7月28日(金) 場所：本庁本館クリエイティブルーム(1-D会議室)

参加者：健康医療福祉部、商工観光労働部、農政水産部等の職員（6名）、WG（4名）

意見交換テーマ

改めて、“やりがい”や“困っていること”を考えていただき、参加者の内なる思いを発掘しました！

- ・県庁の仕事でのやりがい
- ・県庁の仕事での苦勞や困ったこと

参加者からの意見

様々な仕事でのやりがいが挙がりました！



- ・地域や社会を変えることができる！
- ・成果が形になる！
- ・相手にポジティブな影響を与えることができる！

新たな気付き

- ・前提として、滋賀や琵琶湖が好きという共通点がある
- ・仕事のやりがいは「相手」があってこそ感じることが多い。



3(2) 活動実績 : WS ～第4回 本庁編④～

開催日：令和5年8月2日(水) 場所：本庁本館クリエイティブルーム(1-D会議室)
参加者：土木交通部、会計管理局、教育委員会等の職員（10名）、WG（4名）

意見交換テーマ

県民の目線から、“滋賀県庁のパーパス”を
発掘するヒントが得られるのではないかと？

県民目線で…

滋賀県の自慢できるところ、伸びしろはどこだと思いますか？

参加者からの意見

「滋賀県には琵琶湖しかないと言うけれど、
琵琶湖があるのがいいんじゃないか！」

【自慢できる】

- ・自然が近い。湖畔の雰囲気が良い（ベンチで会話する老夫婦、元気に走り回る子ども…）。
- ・滋賀県の図書館は実は歴史が深い。

【伸びしろ】

- ・県内の交通アクセス（琵琶湖の横断ができない…）
- ・もっとPRできる。色々取り組んでいるのに情報にアクセスしにくい。

新たな気付き



- ・ピワイチや釣り、図書館や文化財など、自分の趣味や興味から滋賀県を見つめ、生活している。
- ・滋賀の自然・文化と県民生活は切っても切れない関係性があると再認識。



3(2) 活動実績 : WS ～第5回 南部編～

開催日：令和5年8月4日(金) 場所：南部合同庁舎3-A会議室
参加者：各部局各地方機関等の職員（11名）、WG（4名）

意見交換テーマ

私たちが仕事をする目的ってなんだろう？

・今の仕事のモチベーション・やりがい

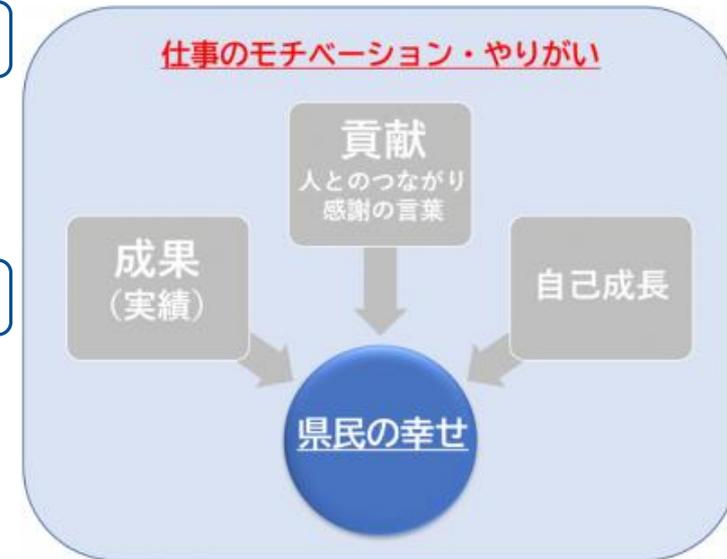
参加者からの意見

誰かが喜んでくれることが“やりがい”につながる

- ・仕事で**実績(成果)**をあげることができたとき
- ・自分自身が**成長**できていると感じるとき
- ・**感謝**の言葉をかけてもらえたとき
- ・組織の一員として**貢献**できているという実感があるとき

新たな気付き

- ・それぞれの部局や役割は違うけれど、県庁というチームで**“県民の幸せ”**のために働いているのだと感じた



3(2) 活動実績 : WS ～第6回 甲賀編～

開催日：令和5年8月9日(水) 場所：甲賀合同庁舎4-B会議室
参加者：各部局各地方機関等の職員（6名）、WG（3名）

意見交換テーマ

パーパス設定にはステークホルダーの共感、応援が必要ということ意識

地域住民（ステークホルダー）から県に求められていること



参加者からの意見

「県民目線」で考えてみる

- ・住民に寄り添った仕事をする
- ・真に必要な施策の選択と集中で目に見える成果を出す
- ・暮らしの土台を支える、頼りになる存在であること



新たな気付き

- ・所属や分野は違っても、県民の生活基盤を支えているという認識は共通



3 (2) 活動実績：WS ～第7回 東近江編～

開催日：令和5年8月25日(金) 場所：東近江合同庁舎4-A会議室
参加者：各部局各地方機関等の職員（6名）、WG（3名）

意見交換テーマ

滋賀県で働く上で、個々の「使命感」のようなものが県庁パーパスにつながるのではないかな

- ・滋賀県という組織で働く上で、
大事にしている思い

参加者からの意見

所属は違えど、県民第一！

- ・**目的**は何か、現状に至る**背景**は何か、**県民**のためになっているかを常に考える
- ・滋賀県のファンを増やしたい、県民にとって**誇り**と思えるようにしたい

新たな気づき

- ・どの意見も自らの体験に基づいた具体的なものが多く、**日々の仕事**が「**思い**」を形づくっている。



3(2) 活動実績 : WS ～第8回 湖東編～

開催日：令和5年8月29日（火） 場所：湖東合同庁舎1-A会議室
参加者：各部局各地方機関等の職員（7名）、WG（3名）

意見交換テーマ

パーパスへの反映を見据え、外からの視点を意識

- ・県庁は、**県民にとってどのような存在であるべき？**
- ・あなたは、**県民から見てどのような存在でありたい？**



参加者からの意見

「守る」がキーワード？

- ・個人や市町だけではどうにもならないことを解決
- ・（規制があることで）**生活を守る**
- ・県庁の仕事が**もっと見える**べき(インターンシップ実習生)

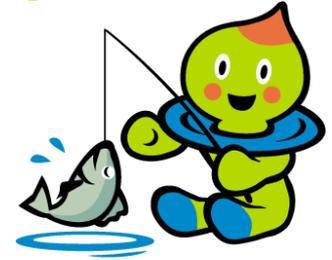


新たな気付き

- ・地方機関は県民との距離が近く、**「県民のために」**という実感が得やすい。
- ・**県がどんな仕事をしているのか、きちんと県民に届けていくべき。**

3(2) 活動実績 : WS ～第9回 湖北編～

開催日：令和5年9月1日(金) 場所：湖北合同庁舎第2会議室
参加者：各部局各地方機関等の職員（7名）、WG（3名）



意見交換テーマ

滋賀県で働く上での、
個々の「使命感」のようなものが県庁パーパスにつながるのでは？

・滋賀県という組織で働く上で大事にしている思い

参加者からの意見

職員の数だけ思いはある！

- ・**魅力**あふれる、**住みたい**と思ってもらえる県にする
- ・良い**関係性**をつくることを大事にする
- ・**公平**な視点で**客観的**にものごとをみる

新たな気付き



- ・**関係性**というキーワードが多く出た。
- ・部局は違えど、全員が県職員として**高い意識**を持っている。



3(2) 活動実績 : WS ～第10回 高島編～

開催日：令和5年9月5日(火) 場所：高島合同庁舎1-B会議室
参加者：各部局各地方機関等の職員（5名）、WG（3名）

意見交換テーマ

滋賀県で働く上での、個々の「使命感」のようなものが県庁パーパスにつながるのでは？

- ・滋賀県という組織で働く上で、
大事にしている思い

参加者からの意見

滋賀県のために！！！！

- ・今より**未来(ミライ)をよりよくしたい**
- ・結果だけでなく**過程から滋賀県のために
なっているか**を考える
- ・業務の最低限化→**生まれた時間でサービスの最大化**



新たな気付き

- ・大事にしている**思いを仕事につなげられたときにやりがいを感じられる。**

3(3) 活動実績：知事との職員座談会

開催日：令和5年9月27(水) 場所：公館ゲストルーム

WGからの活動報告

- ・WGでの議論や、WSでのテーマと「発掘」した職員の思いの概要
- ・「発掘」した“滋賀県庁のパーパス”につながる**18のキーワード**と職員の「思い」

WGメンバーの感想報告

- ・部署や職階が異なる人と話せて、新たな発見があった
- ・話しやすい雰囲気づくりの**コツをつかんだ**
 - ① **少人数**、② **自己紹介**をしてから本題に入る
- ・進行は苦手だと思っていたが、実践する中で**自信がついた**



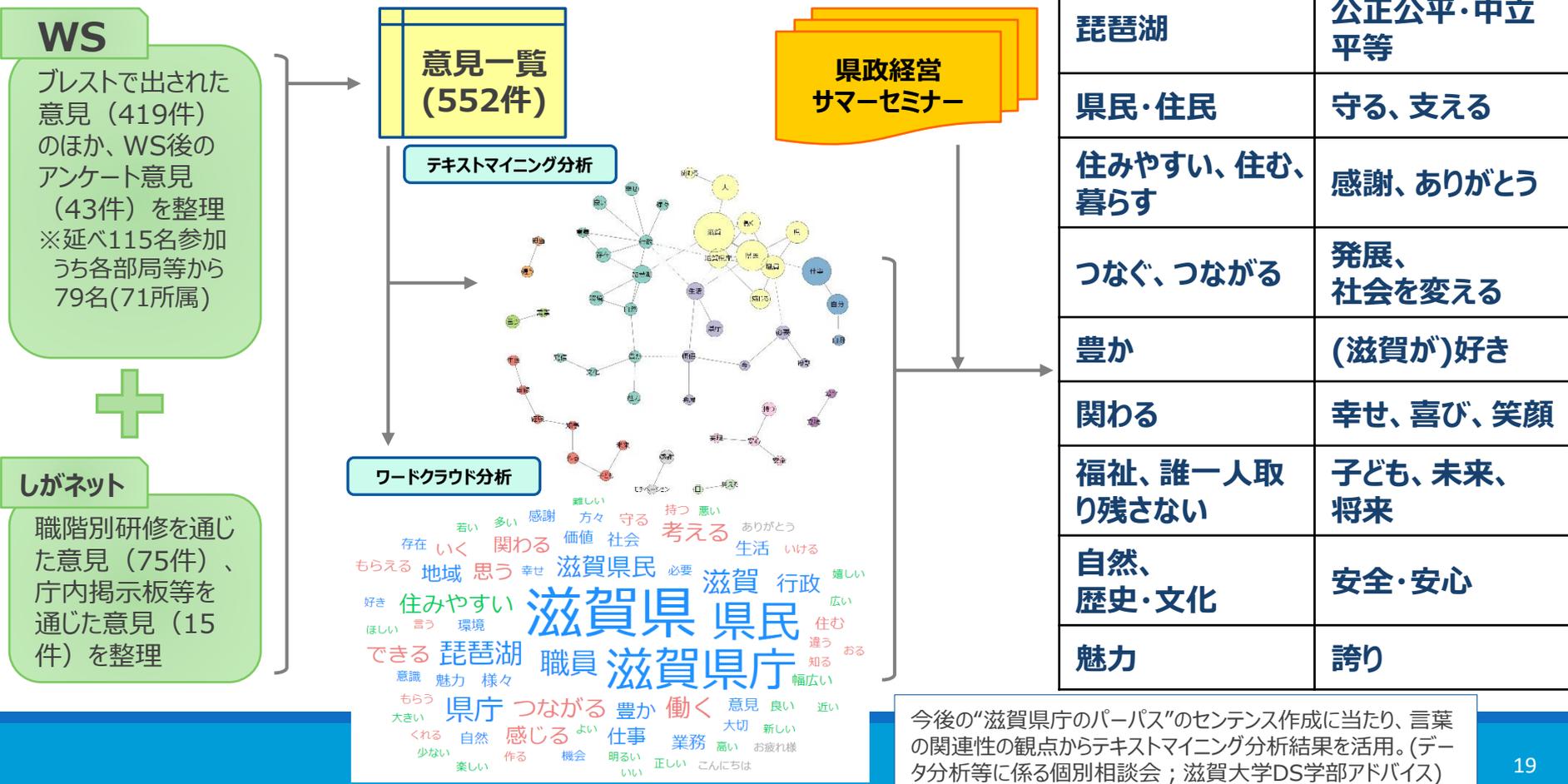
知事からのコメント

- ・皆の意見を聞いてきた、この過程が大事である。
- ・お互いのことを知らないと話ができない。 今回の座談会でも最初に自己紹介があったのはとても良かった。
- ・県庁の仕事は「つなぐことだ」という人は多い。
- ・パーパス（**共通の思い**）があれば、職員になりたい人に呼びかけたり、企業から投資を呼び込んだりするときに使えらると思う。



4 キーワードと職員の「思い」①

WSでのご意見(事後アンケート含む)や、しがネットを通じていただいたご意見をもとに、意見一覧データを作成し、テキストマイニング分析(共起ネットワークグラフ分析)およびワードクラウド分析を行いました。そこから、“滋賀県庁のパーパス”につながりそうな言葉を抽出した上で、県政経営サマーセミナーで出されたマネジメント層のご意見を踏まえ、**18のキーワード**として整理しました。次ページ以降に、**キーワードとそれに関わる職員の思い**を整理しました。



4 キーワードと職員の「思い」②

琵琶湖

- 琵琶湖は滋賀県民の**心の拠り所**であり**アイデンティティー**
- 琵琶湖は**持続可能な社会**の象徴、**豊かで幸せな未来**の象徴
- **琵琶湖を預かる滋賀県**は**他府県(下流地域)の人々の生活**も支える存在
- 琵琶湖があることで、県民には**環境に対する意識が強く根付いている**
- 歴代知事や職員は**「水色いちばんー滋賀です」**や**「Mother Lake」**をシンボルワードに、琵琶湖を大切にしてきた
- 琵琶湖を中心に、職員・県民・関係団体が**同じ方向を向くことができる**
- 琵琶湖しかないと言うけど、**琵琶湖があるのがいいじゃないか！**
- 人や動植物にとって暮らしやすい環境を守り継ぐことが、**滋賀県庁の使命**

4 キーワードと職員の「思い」③

県民、住民

県民とは・・・

滋賀県に住む人（過去、現在、未来）、働く人、訪れる人、
滋賀を愛する人、**滋賀県に関わる全ての人**

- **県民の「ありがとう」のために**仕事をしている
- **県民目線**で業務を行い、信頼される行政でありたい
- 県庁のしごとは、**県民が平等に当たり前の生活を営むための土台を作る**こと
- **個性**の違うさまざまな人たちが**胸を張って**生きられる**社会**の実現
- **滋賀県民**であることを誇らしいと思ってもらいたい
- **唯一無二**の琵琶湖を有し、古くから**交通の要所**として栄えた滋賀は県内の人だけではなく、**関西の人々の暮らしも支えている**

4 キーワードと職員の「思い」④

住みやすい、住む、暮らす

- **すべてのいのち**にとって住みやすい環境をつくる
- **水と緑、豊かな自然**と共に生きる滋賀での暮らしを**次世代にもつなげたい**
- 「**住み続けたい**」、「**住んでみたい**」と思ってもらえるような**福祉施策や住環境の維持・整備**をおこない、県内外に自信をもって発信できるようにしたい

つなぐ、つながる

- 人と人が**交流を図れる（つながる）場を提供**することは、県職員の強み
- **様々な関係者の力をつなぎ、県域かつ総合行政としての役割が発揮**できるようにすることを大事にしている
- 様々な**行政サービスと県民生活をつなげる**こと、県内外を問わず**機会や縁をつなげる**ことが、**生活を守り、地域を発展させることに結びつく**

4 キーワードと職員の「思い」⑤

豊か

- **自然**が豊か、**歴史**が豊か、**文化**が豊か、**三方よしの精神**など**こころ**が豊か
- **物質的な豊かさ**も**こころの豊かさ**もどちらも大切
- 豊かであるということは、**未来への希望**や**さらなる発展につながる**
- 滋賀県庁は、県民の生活の中に**豊かさを創造する存在**でありたい

関わる

- **色々な人と関わって、色々な意見が聴けるのが楽しい**（県職員は、誰にでも会いに行くことができる）
- 組織として仕事をしているものの、**職員個人と県民、関係機関担当者、上司・同僚との関係性**が**仕事へのモチベーション・成果**に大きく影響している
- 育てていただいた滋賀県への**感謝の気持ち**として、地域貢献に関わり、**恩返し**をしていきたい

4 キーワードと職員の「思い」⑥

福祉、誰一人取り残さない

- **弱い立場**にある人たちに寄り添い、**困りごとを解決**していくことが公務員の責務だと思う = **「自覚者が責任を持つ」**
- 障がい者のみならず**働きたいと希望するすべての人**が**安心して働ける環境**をつくりたい
- 地方自治法上、地方公共団体が担うすべての行政は**「住民の福祉の増進を図ることを基本として」**実施することとされている

自然、歴史・文化

- 先人が紡いできた**伝統、文化を継承し、発展**させ、**次代に託す役割がある**
- **三方よしの精神**を**県外の人にも浸透**させたい
- 豊かな自然、歴史・文化があるにも関わらず、**アピールが下手**と言われているが、**その分伸びしろは大きい**

4 キーワードと職員の「思い」⑦

魅力

- 県外出身であるが、滋賀県で働きたいと思ったのは、**食文化**や**三方よしの精神**などが**魅力的**だから
- 琵琶湖や山など**自然環境**、寺社やお城など**歴史**と**文化財**
- これら**滋賀県ならではの魅力**をもっと知ってほしい
- **滋賀県の魅力**を発信し、**今ある資源を活用して新たな価値を創造**したい

公正公平・中立、平等

- 誰に対しても**誠意ある行動**で**目に見える貢献**を行い、**信頼される存在**になる
- 客観的にものごとを見て、**根拠に基づいた行動**をとる
- **市町より広域な視点**で、**国より目が行き届くよう奉仕**する

4 キーワードと職員の「思い」⑧

守る、支える

- 規制行政等を通して、県民生活や自然等を守りたい
- 県職員は、滋賀県・琵琶湖という舞台の裏で県民を支える黒子
- 頑張っている人をサポートできるような組織になったら嬉しい。サポートしたことは周り回って滋賀県庁に返ってくる

感謝、ありがとう

- “感謝される県庁”でなくてはならない。
- 県民からの“ありがとう”が職員のモチベーション（やりがい）になる。
- そのために県庁が何をしているかもっとアピールしていく必要がある。

4 キーワードと職員の「思い」⑨

発展、社会を変える

- 滋賀県をこの先もよりよいものとして**発展させていくことが仕事**
- **伸びしろがたくさんある滋賀県を更に成長させたい！**（住みよさ、自然、歴史文化、人材 などなど）
- 今後の社会を見据えて**どのように滋賀県の発展に寄与するか**が求められている

（滋賀が）好き

- 県民が**愛着**を持って**住み続けたい**と思える滋賀県にしたい。
- 次世代の子どもたちに**好きになってもらえる県**を作りたい！
- 人を大切にする**滋賀県庁が好き**で入庁した。

4 キーワードと職員の「思い」⑩

幸せ、喜び、笑顔

- 子どもたちに**幸せな滋賀県**を引き継いでいきたい
- 自然な「ありがとう」があふれる働き方・働きかけ（褒め合う機運）
- 個々には多少の我慢や不満はあっても、**みんなが一番ハッピーになれる滋賀県をつくる**にはどうすればいいかと**悩み、模索しながら取り組んでいく組織づくり**が必要
- **幸せを感じる余裕**があることで、**人を幸せにする施策**や**人のために役立つ仕事**ができる

子ども、未来、将来

- 子どもたちに**滋賀の魅力**を引き継いでいきたい
- 子どもたちの**未来を自身の手で作り上げたい**
- **将来を見据えた持続的な幸せな社会**を実現する

4 キーワードと職員の「思い」⑪

安全・安心

- 県民の**誰もが**、**安心して安全に暮らせることを体感**できる滋賀を作る。
- **安心して任せられる滋賀県**（住民の支え、暮らしの土台、頼られる存在）
- 誰一人取り残さない。（県民の助けとなる存在に）

誇り

- 職員みんな**滋賀や琵琶湖が好き**で、県民の皆様の**生活をより良く**しようと日々奮闘している
- 一つの**共同体(滋賀県庁)としての一体感と自覚**を大切にし、**働きたいと思われ**る県庁でありたい
- 県民自身が**滋賀県民であることに誇り**を持ってもらいたい。

5 おわりに ～WGやWSの活動を通じて～

「何のために、誰のために、私達が、今、滋賀県庁でともに働いているのか」を改めて考え、議論し、職員の思いから“滋賀県庁のパーパス”につながるキーワード等の取りまとめをしてきましたが、今回の活動を通じて、以下のような気づきや感想が得られました。

“滋賀県庁のパーパス”を掲げ、それを実現していくためには、職員同士が、所属・職種・職階等を越えて、自由に意見を言い合い、思いを共有することが、改めて大切であると考えます。

WGメンバーの気づきや感想

- 深掘りすると、皆さんの仕事に対する熱い思いを引き出すことができた。
- 自由に自分の思いや考えを言い合える雰囲気づくりの重要性を改めて感じた。
- 所属や職種が違う職員同士の交流、つながりはとても大切だと思った。
- 他部署の先輩方と話をし、色んな経験や意見を聞くことは非常に勉強になる。
- 他人の意見に乗ったり、褒め合ったりする空気感を創り出すことが心地良かった。
- 意外と、みんな話してくれて、個々の想いを共有できて良かった。
- 風通しの良い職場を作る上でお互い「さん」付けで呼び合うのはいいなと思った。

WS参加者の気づきや感想

<p>多様性 (Diversity)</p>	<p>他所属の方と話す機会を増やすと、県庁組織が変わっていくと思う／他部署の方のお話が聞けて勉強になった／他の人の考えを聞いて自分の考え方を広げることができた気がする。新しい発見があった／人それぞれでいいんじゃないか／一人ひとり異なるバックグラウンドがあり、多様な視点に触れることができて面白かった／いろいろな立場からの思いがあり、気づきを得ることができた／他県で生まれ育ったため、滋賀県民から見た視点が新鮮だった／県庁の仕事の広さを知った／色々な立場からの意見を集めることは大事／経験年数による意見の違いが面白い</p>
<p>心理的安全性</p>	<p>制約なく色々なアイデアを出す面白さを感じる／普段考えないことだったので、アウトプットすることが面白かった／若い職員が仕事について前向きに様々なことを考えていることが分かって嬉しかった／自分の考えを発信できる良い機会だった／なかなか話さないテーマでの議論が新鮮だった。普段の業務の中に取り入れてみていいのではないかと人とのつながりにやりがいを感じる</p>
<p>思いの共有 (共通点)</p>	<p>滋賀県をより良くしたいという思いを全員が持っていると感じた／滋賀や琵琶湖が好きという共通点を感じた／みんなやっぱり琵琶湖が好きなんだと思った／やはり琵琶湖の存在が大きい／“県民の幸せ”が1番のやりがいだと気づくことができた／滋賀県が好きな職員がたくさんいて嬉しかった／所属や業務内容が違っても、県民を第一に考えている／立場により仕事のやりがいは様々だが、大きな目的は同じ／「明るくポジティブに」という思いが共有できた／職員がどのようなことにやりがい、モチベーションを感じているか共有でき、今後の職場に役立たせる可能性を感じた／より多くのサービスを届けたいという思いは共通</p>
<p>滋賀県職員である ことの再認識</p>	<p>初心に帰ることができた／自分の仕事の意義を改めて考えるいい機会になった／立ち止まって振り返る機会を大事にしていきたい／滋賀県庁がチームとして動き、県民を支えていることを改めて認識した／県に求められていることを再認識できた。そういう行動をとれるようにしていきたい／組織の一員であるという自覚が生まれた</p>
<p>その他</p>	<p>全職員こういう機会があるといいと思う／県という組織の重要性をもっとアピールしていくべき／感謝や達成感を得るには、県民から信頼を得ないといけない／県庁の仕事が見えるように／自分のパーパスもしっかり持ちたい</p>